

「東北教区東日本大震災救援を続けるための募金 A / B」のお願い

◇貸付金返済支援のために―募金 A

会堂・牧師館の建て替えや大規模改修を余儀なくされた東北教区内 19 の全教会は、再びの献堂を終えました。内 16 の教会が総額約 2 億 3850 万円の教団全国募金による支援金を、14 の教会が総額約 1 億 6085 万円の貸付を受け、感謝の内に被災地での宣教のわざに向かっています。

貸付を受けた教会は小規模教会も多く、教会員も被災している中、返済に向かいます。これを支援すべく「募金 A－教会の返済支援のために」を、昨年 12 月よりお願いしています。14 教会中 6 教会がこの支援を必要としています。4 月末までに 219 件 6,835,728 円が捧げられ、内 6,835,000 円を表のように配分しました。各教会とも励まされています。

教会名	借入金額 (円)	教会規模を示す数値 (*)	第 1 回配分額
名取	4,000,000	190	199,865
川俣	10,900,000	241	428,314
郡山細沼	5,206,129	149	332,415
中村	30,750,000	127	2,298,668
鹿島栄光	21,000,000	93	2,145,469
常磐	35,000,000	232	1,430,269
計	106,856,129	1,032	6,835,000

* 2016 年度教区負担金額 (千円)



【送金先】

口座記号番号：02220-5-137681

加入者名：日本基督教団東北教区

※通信欄に「募金 A」あるいは「募金 B」とご記入ください。

◇エマオ・いずみの働きを

続けるために―募金 B

「被災者支援センター・エマオ」「放射能問題支援対策室・いずみ」(<http://tohoku.uccj.jp/izumi/>) の働きを 2019 年 3 月まで継続させたいと、今年度教区総会で決議しました。弱者が取り残され、健康被害がより心配される状況があるからです。教団は救援募金をすでに閉じ、対策本部も 2017 年 3 月をもってその働きを終えます。それ以降の働きは東北教区内の特別会計によって行われることになります。このために「募金 B－エマオ・いずみの働きを続けるために」をあわせてお願いしています。4 月末までに、220 件 4,371,646 円が寄せられていることに感謝します。

2 つの募金の趣意書・振込用紙は各教会・伝道所にお届けしてありますが、ご連絡頂ければお送りします。

連絡先：東北教区事務所

TEL：022-222-0998

FAX：022-222-0996

どうぞよろしくお願いします。

小西 望（東北教区議長）

国際青年会議／開催日時：2017 年 3 月 28 日～ 31 日 会場：京都・関西セミナー・ハウス



■国際青年会議実行委員会／運営委員会メンバー

国際青年会議組織図

【実行委員】

実行委員長／秋山 徹（教団・関東教区議長）

運営委員長／岡本知之（救援対策本部委員）

事務局長／飯島 信（救援対策本部担当幹事）

事務局長補佐／飯田 仰（東神大院長）

佐々木美知夫（救援対策室長）真壁 巖（救援対策本部委員）

小西 望（東北教区議長）片岡輝美（会津放射能情報センター代表）

【運営委員】

・関東グループ

片岡平和（早稲田奉仕園）朴大信（東京神学大学院生）

鄭鎬碩（聖学院大学教員）David McIntosh（救援対策本部事務局）

・関西グループ

岡本拓也（南住吉教会牧師）片岡希望（同志社大学学生）

香山由希（聖公会信徒）

日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 20

2016 年 7 月 5 日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄

石橋秀雄議長と長崎哲夫総幹事が、台湾基督長老教会（PCT）に謝辞

第 6 回こひつじキャンプ 2 日目に永福教会（PCT）を会場に日本基督教団主催の PCT への感謝礼拝が行われ、教団を代表して石橋秀雄東日本大震災救援対策本部長が感謝のメッセージを述べ、林芳仲 PCT 総幹事が応答のメッセージを述べました。

「断固たる告白へ」詩篇 124 編 8 節 石橋秀雄

福島 of 放射能汚染の痛みの中にある親子をお招きくださり心から感謝いたします。嘉義、宜蘭、台南、台東、新竹、彰化と 6 中会が、それぞれにキャンプを企画し献身的にご奉仕をしてくださり、参加した子どもたち、親たちにとって一生忘れられない感動の経験をすることができました。東日本大震災が発生した時、ただちに台湾基督長老教会（PCT）の代表者が御見舞いと献金を携え日本に来てくださったことを、わたしたちは忘れません。

東日本大震災では 8,000 万円を超える多額の献金、毎年ボランティアを日本に送り続けてくださり、こひつじキャンプを含め、PCT の教会が総力を上げて日本基督教団（UCCJ）の被災者支援をなし続け、両教団の血の通う深い関係に導かれたことに感謝します。パスカルは「自分の悲惨を知っているが故に偉大である」と語っています。PCT の教会の皆さまが日本の悲惨の中に立つ UCCJ の悲惨を知り、支援をし続けてくださいました。PCT の祈りとご支援の中で、主への断固たる信仰告白をする UCCJ へと導かれました。バビロン捕囚の深い絶望と苦難にあったイスラエルの信仰者が、生ける主に出会い、「われらの助けは天地を造られた主の御名にある」（詩編 124 編 8 節）と断固たる信仰告白をします。東日本大震災発生直後に被災地へ行き、石巻市の凄まじい津波の破壊に衝撃を受け、まさに言葉を失ってトボトボ歩く中で、私の心に響いてきた御言葉が詩編 124 編 8 節です。帰宅直後に東日本大震災被災に関する議長声明を書き、その冒頭にこの御言葉を掲げました。被災地・被災教会支援は、UCCJ には担いきれないほどの重く困難な課題でした。この苦難の中で詩編 124 編 8 節の告白に導かれることを信じて支援活動に取り組んで来ました。被災者支援と共に 32 の教会の建て替えあるいは大規模修理をしなければなりません。国内 10 億円献金を呼びかけ、4 年間で国内 10 億円を達成しました。海外から頂いた 4 億 1 千万円の献金は全額人道支援に用いました。国内献金の内、4 億円を人道支援に、6 億円を用いて会堂・牧師館の建て替え、及び大規模修繕を必要とする 32 の教会への支援に用いました。

私どもは主の憐れみを受け、今「われらの助けは天地を造られた主の御名にある」断固とした信仰告白をすることができます。台湾基督長老教会の多大なる祈りとご支援をいただきましたことを心から感謝致します。

台湾基督長老教会 林芳仲総幹事の応答の言葉

皆さん、ようこそ台湾に来て下さいました。歓迎いたします。

台湾基督長老教会 (PCT) はこの何年間にわたって、東日本大震災の支援活動を計画し、行ってきました。ここで改めて、PCT 教会社会部の林偉聯牧師に感謝いたします。偉聯牧師は「こひつじキャンプ」の受け入れに力を入れて取り組みました。「こひつじキャンプ」は毎回場所を変えて開催され、これまで、嘉義、宜蘭、台南、台東、新竹、彰化と行ってきました。PCT は、(地方組織である) 中会を重視し、その活動を尊重し、それぞれの中会の受け入れ体制を大切にしています。第 1 回目の嘉義中会は、砂遊びや台湾式の焼き芋の活動を企画しました。(福島では放射能汚染を恐れて触ることの出来ない) 砂や水や葉っぱを子どもたちに触らせるために考えたのだと聞きました。福島では出来ない遊びを台湾で体験してもらったのです。(目の前で) 見えるのに触ってはいけないといわれるのは辛いですね。聖書に「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」(マタイによる福音書 19 章 14 節) という御言葉があります。天国に入るのは子どものような人です。長い時間の礼拝に、遠慮なく動くのは子どもたちですね。子どもは素晴らしいです。どうぞ今のうちにもっと動いてください (笑)。私は、詩編 121 編を引用したいと思います。「目を上げて、私は山々を仰ぐ。私の助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る 天地を作られた主のもとから。」(詩編 121 編 1-2 節) 私たちは苦難に会った時にも挫折した時にも、神様に祈り求めれば神様は助けてくださいます。神様は私たちの助け主ですから。UCCJ と PCT は、どんなに困難な時でも心をつなげて互いに助け合い、神の助けを求めます。UCCJ に感謝いたします。被災地の復興の支援活動に私たちを参加させてくださいました。PCT にボランティアを派遣する機会を与えてくださいました。どうか、神様の大きな恵みによって、UCCJ を通して日本が、PCT を通して台湾が祝福されるようにお祈りいたします。皆さんの上に神様の祝福がありますように。(翻訳：入江玲子)



第6回こひっじキャンプ in 台湾

- ◆日 時:2016年4月2日(土)～5日(火)
- ◆場 所:台湾彰化県
- ◆招待者:PCT 彰化中会
- ◆参加者:日本側:福島県在住の親子37名
スタッフ6名 計43名
台湾側:PCT 本部関係者6名
中会関係者10名
計16名
日台総計:59名



第24回こひっじキャンプ in 山中湖

- ◆日 時:2016年5月3日(火)～5日(木)
- ◆場 所:東京 YMCA 山中湖センター
- ◆参加者:福島在住の親子51名 スタッフ9名 計60名



「一番の思い出」

僕は、台湾キャンプの思い出で、一番心に残っているのは、台湾の学生の人達と元氣いっぱい遊んだことです。鬼ごっこなどをたくさんして、台湾の学生と仲良くなれたし、楽しかったです。次に楽しかったのは、農場に行っていかだをこいだり乗り物に乗って遊んだことです。特にいかだでは、みんなと水をかけあったりしてとっても楽しかったです。他にも、台湾の思い出はたくさんあります。もうこの台湾キャンプは終わるけれど、もし台湾に行ける機会があったら、また行きたいです。(YA/12歳)

「台湾の方々の優しさ」

貴重な経験をありがとうございました。礼拝に参加させて頂き、心が洗われ自然と涙があふれ、新たな一歩をふみ出しております。台湾の方々の優しさ、スタッフの方々のご労苦、本当に感謝しております。ありがとうございました。外国旅行という名所ばかりの観光でしょうが、こひっじキャンプは違います。現地の方々が自然の中の当たり前の遊びを提案して頂き、我が子ものびのびと外遊びを満喫でき、久々に汗びっしょりで着がえ、母として嬉しく思いました。今回台湾キャンプが最後で、台湾基督長老教会の方々に礼を申し上げられず残念でしたが、祈ることで通じるのでは……。どこに行っても歓迎ばかりで、息子も喜んでおりました。もっと言葉が伝わればと思い、帰国後、会話辞典を購入し、次回活躍できればと考えております。いつの日かお会いできることを願います。(SY/保護者)

「父親として省みた日々」

移動(福島から施設まで)が遠いが、それ以上の価値のあるキャンプであった。朝食・夕食の時間、いつもなら勤務(残業)中であり、触れ合うことのできないのに、ゆっくり子どもの姿を見、接することができた。他の子と仲良くグループに入り、元気に活動する姿、自分の身の回りのことを頼らず取り組む姿など、大変嬉しく思うとともに、どれだけ子と接していなかったか、見ていなかったか、反省させられた。(私の)一人の子は少し手のかかる子ではあるが、スタッフをはじめ、参加者が優しく接していただいたことに深く感謝しています。ありがとうございました。(UT/保護者)

「また来たいです」

おかし作りのやきマショマロが楽しかったです。マショマロをいっぱい食べました。うどん作りは、ざいりょうさがしは見つけられなかったけど楽しかったです。うどんをこねたり切ったりしたのが楽しかったです。キャンプファイヤーは、おもしろかったです。山中湖にもう一度行きたいです。(EK/9歳)

「同じ思いの人に出会えること」

今回このような企画に参加することができ、子供たちが楽しく過ごす……とともに、私自身も日常をはなれ、ゆったりとした時間をすごせたことをとてもうれしく思います。震災から5年がたち、福島でくらすことに不安や悩みがありますが、なかなかまわりの人たちとそのような話をすることができないので、こうして、同じような思いの方が集まれる場のあることはとてもありがたいことだと思います。2泊3日、あっという間でしたが、とても充実した、内容の濃い時間でした。本当にありがとうございました。また機会がありましたら、ぜひ参加したいです！(TA/保護者)

「国際青年会議 in 京都 — 持続可能社会の実現をめざして」について

飯田 ^{あおく} 仰 (事務局長補佐)

2017年3月28日(火)から3月31日(金)まで、京都・関西セミナーハウスに於いて、教団主催の国際青年会議が開催されます。今会議では、2014年3月、仙台にて開催された原発問題をめぐる国際大会の宣言文にある「若い世代の人々」への「教育と訓練」を主なテーマとして捉え、日本における原発問題の現状と課題について、私たち教会に何ができるのかを考え、意見交換をし、今後どのように教会が継続して関わることを模索したいと願っています。参加者は教団の各教区の青年や、教団と関係がある海外からの招待者で、80名規模の大会としての準備を進めています。

去る3月には、ドイツ・フランクフルトで開催されたEMS(福音連帯宣教会)主催の国際大会に3名の青年が日本から参加しました。そこで得られた情報及び人脈をこの大会に生かしていくことを願っています。フランクフルト大会では、ドイツ

EMSの代表者(Mr. Lutz Drescher)からピースキャンドルを託されました。このキャンドルには、世界の平和のために、日本の教会の礼拝や集会において火を灯し、共に平和のために祈って欲しいとの願いがこめられています。そして、これを2017年3月の京都会議においても用いて欲しいとの願いを受け、日本に持ち帰り、現在、東北教区の諸教会を回っています。聖火リレーのように次々に受け継がれて、京都会議に向けて祈りが捧げられています。

ところで、京都会議のスケジュールですが、大会初日は同志社大学寒梅館にてオープンフォーラムが予定されています。主題講演を小原克博氏に、その後のプレゼンテーションを、福島原発問題に最初から関心を示し、東京電力の記者会見には必ず出席してこられた漫才コンビ「おしどり」のマコさん・ケンさんをお願いする予定です。それからは、会場を関西セミナーハウスに移して本会議が開催さ

れます。第2日目午前には田中優さんの講演があり、2日目午後から日本及び海外各国の反原発に関わる教会の取り組みが報告される予定です。

福島第一原発の事故を受けて、私たち教会は何ができるのか、そして、日本からどのような声を世界に向けて発信することができるのか、それが問われる重要な大会になることは間違いありません。会議を終えた後には、原発関連施設の視察ツアーや放射能測定器を作製するワークショップなどが予定されています。

国際青年会議に多くの青年が集まり、問題意識を共有することを通して更に視野が広げられることを願っています。又、教会が今すべきことを明らかにし、この課題に継続して関わることをできるように願っています。そのためにも、皆様方の祈りが必要です。原発問題に関心を持っている青年がいまいましたらぜひご紹介下さい。会議を通して

国際的なネットワーク作りもできることを願っています。そして、日本の社会でイエス・キリストの福音を宣べ伝えるために、教会がこの会議の内容を伝道の働きに生かすことを祈って止みません。

